

平成 2 9 年 度

芸術文化学部 芸術文化学科

(デザイン情報コース・建築デザインコース・芸術文化キュレーションコース)

推薦入試・帰国生徒入試・社会人入試

小 論 文

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
- 2 問題は、全部で4ページ、解答用紙は1枚、下書用紙は1枚である。試験開始の合図があったから確認すること。
なお、試験問題に文字などの印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れなどがあつた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始後に、解答用紙の指定欄に受験番号を算用数字で記入すること。
氏名を書いてはいけない。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入すること。
- 5 配付された問題冊子および下書用紙は、試験終了後、持ち帰ること。

実施年月日
28.11.30
富山大学

次の文章を読んで後の問に答えなさい。

毎年ギネスブックの最新刊を読み込むような好奇心旺盛な人でなくても、日本記録や世界記録には誰しも少しは関心があるだろう。最近では小学生でもよく勉強しているので、「日本で最も高い山はどこ？」と訊きかれれば即座に「富士山」と答えるだろうし、「日本で最も長い川はどこ？」と問われればこれまた間髪入れずに「信濃川」という正解がきつと返ってくるだろう。もちろん、富士山や信濃川がそれぞれ日本記録を保持していることに対して異論はないはずだ。

では、次の質問はどうだろうか——「日本で最も低い山はどこ？」、そして「日本で最も短い川はどこ？」

「日本最低の山」は、大阪湾にある天保山（標高四・五メートル）と認定されている。国土地理院が設置する「三角点」は地図計測上の重要度に応じて一等から四等までのランクがある。天保山は二等三角点がある山々の中でもっとも低い標高をもつという意味で、「日本最低の山」なのである。もつと数が少ない一等三角点をもつ山に限定すれば、「日本最低の山」の栄誉は同じく大阪の堺市にある蘇鉄山（標高六・八メートル）に移る。いずれの「山」も、大阪湾の浚しゅんせつ（注）で出た土砂を積み上げて造った人造の山だ。天保山も蘇鉄山も、三角点がもともとなかったり、廃止されそうになったりしたことが過去にあるそうだ。三角点がなくなれば、行政的には「山」ではなくなる。しかし、そのつど、近隣の住民が請願運動を起こして、「日本最低の山」を守り続けてきたという。

「日本最高の山」が問答無用の強烈な説得力をもつのに対して、「日本最低の山」は何だかいいわけの多いもどかしさがついでまわる。「最高であること」はすぐに納得できるのに対し、「最低であること」は行政的に認定しなければならぬからだ。この非対称性が問題の根っこにある。

実際、そもそも「山」をどう定義するかはたいへんな難問で、まだ答えはない。直感的に「山」に見える地形のふくらみを「山」と呼べばすむ話ではないかと考える人がいても不思議ではない。しかし、周囲の土地から突き出て標高が高ければ「山」とみなすと機械的に定義してしまうと、公園の砂場で幼児がつくった「砂山」まで「山」とみなさなければならぬなるだろう。日本中、「山」だらけになってしまう。これでは話にならない。結局、その土地の住民が古来「山」と呼ぶ土地の突起に対して、国土地理院が「三角点」を与え、初めて合法的に「山」とみなすしかないわけだ。

私たちは、「山」といえばいつい高い山を思い描くので、「山とは何か」という定義など自明だろうと軽く考えてしまいがちだ。しかし、高い山ではなく低い山にいったん目を向けると、「山」といえるかどうかの境界がぼやけてしまう。高い「山」の明瞭さは低い「山」のあいまいさの免罪符にはならない。だからこそ、国家や法律の助けを借りて「山である」と宣言するのである。

「山とは何か」という定義の問題は、分類が一般的に抱える問題そのものである。私たちの住んでいるあるいは通り過ぎる土地に、さまざまな程度の「起伏」があることは誰も否定しない。大地には確かに凹凸がある。しかし、その「凸」を「山」

というグループに分類できるかどうかは、必ずしも自明には決まらない。凹凸の程度は連続的であるのに対し、「山」であるか否かはイエス／ノーの二者択一である。山である「凸」の集まりと、山ではない「凹」の集まりとは、互いに排除し合う離散的な集合である。

「連続なつらなり」からいかにして「離散的な群」を切り出すのか——分類という行為の根幹はまさにそこにある。そして、もともと分けられないものをあえて分けるという、分類そのものが抱える原罪的難問が同時に生じる。

「日本最低の山」という設問は、幸いにして国土地理院が解決してくれた。では、もうひとつの「日本最短の川」という問いはどうだろうか。この日本国土には長短さまざまな「川」が流れている。「最長の川」が現にあるのであれば、その反対に「最短の川」があったっていいではないか。おそらく「川とは何か」という定義も、まともに考えだすと、「山とは何か」という疑問と同等の難問なのだろう。

しかし、この「日本最短の川」という設問に対しても、行政的にはちゃんとした答えがあることをつい最近になって知った。現在の日本の河川行政では、「一級河川」や「二級河川」という等級づけをしている。二〇〇八年十月二十一日付の『紀伊民報』は、和歌山県的那智勝浦町を流れる「ぶつぶつ川」（全長十三・五メートル）が新たに二級河川に指定され、それによって「日本最短の川」に認定されたと報じている。「ぶつぶつ川」が二級河川になる前は、北海道後志管内島牧村を流れる二級河川「ホンベツ川」（全長三十メートル）が「日本最短の川」だったそうだが、「ぶつぶつ川」に首位の座を奪われ

るまでそれを知る村民はほとんどいなかったらしい。

(三中信宏『分類思考の世界——なぜヒトは万物を「種」に分けるのか』から)

(注) 浚渫^{しゅんせつ}……水底の土砂や岩石をさらうこと。(『広辞苑 第六版』)

(本文は原文のままである。ただし、小見出しを削除し、注と傍線を付けた。)

問1 筆者は日本最低の山がどのように決められているかと述べているか、二〇〇字以内で要約しなさい。

問2 傍線部にあるように筆者は『山とは何か』という定義の問題は、分類が一般的に抱える問題そのものである。』と述べている。分類が抱える問題について六〇〇字程度で説明しなさい。

科目 小論文

解答用紙

問1

Grid for question 1, consisting of 20 columns and 20 rows.

200 100

問2

Grid for question 2, consisting of 20 columns and 20 rows.

700 600 500 400 300 200 100

Score box with label '総点' (Total Points) and an empty space for the score.

Exam number box with label '受験番号' (Exam Number) and a grid for entering the number.

下書用紙